

II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／読解の支援②

指導例 ②

「情報の読み取り・活用ワーク」による指導

「図や表に書いてある情報を読み取り、目的に合わせて必要な情報を選択し、その情報を基にして自分の考えや気持ちを伝える」という「情報の活用」を指導します。ステップ1～3の順に課題に取り組みます。練習ワークには、レベル1～3があります。

売店の店員さんをお願いしたいこと：甘くないお菓子を増やしてください

レベル1の例

売店で売られているお菓子の個数

※解きおわったら、一番後ろのページを隠して答え合わせをしましょう。

Aくんの気持ち
「おなかですと、いつも売店でお菓子を買うのですが、売店には**甘いお菓子**が多いです。**甘くないお菓子**は2種類しかありません。**甘くないお菓子が増えたらいいのに**、と思います。」

ステップ1: ①と②の部分を表す言葉を考え、□の中に書こう。
わからないときは、「Aくんの気持ち」を参考にしよう。

ステップ2: Aくんの気持ちを伝えるために必要な情報は①、②のどちらでしょう。

ステップ3: 以下の文を、Aくんの気持ちと円グラフに合うように完成させよう。

() お菓子の個数は全体の()%しかないので、もう少し、種類を増やして頂けませんか??」

情報の読み取り・活用のステップ

ステップ1

図や表に表されている情報を、テーマ別にまとめる。

ステップ2

テーマの中から、自分の意見を表すのに必要な情報を見つける。

ステップ3

情報を要約し、それを根拠として自分の意見をまとめる。

練習ワークのレベル

レベル1

説明を読みながら、情報活用のステップ①②③を実行します。

レベル2

説明のない条件で、情報活用のステップ①②③を実行します。

レベル3

レベル1・レベル2で行ってきたことを自力で思い出し、文章を組み立てます。

指導のポイント

指導のためのワークとして、レベル1～レベル3を設定しました。状況に合わせて利用します。

司書の先生をお願いしたいこと：最近出版された本をもっと入荷してください

レベル3の例

図書館の蔵書の出版された年

※解きおわったら、先生に確認してもらいましょう。

Aさんの気持ち
「うちの学校の図書館は、古い本ばかりで、読みたいと思える本がありません。もっと最近出た、新しい本があればいいのにな、と思います。」

■問題■
グラフに示されている情報を使って、Aさんの主張を文にしましょう。難しいときは、チェックポイントを参考にしましょう。

チェックポイント	チェック
図表に示されている情報をいっつか使った	
図表の項目をいっつかまとめて、別の言葉で言いかえた	
今の状況、気持ち、お願いしたいことを1～2文で書いた	

C：支援の例／平仮名・漢字の流ちょうな読みの支援①

文章を流ちょうに読むことが苦手な場合、文章中に出てくる平仮名单語や漢字単語について、まとまりとして読むことができるように練習することが効果的です。ここでは、まとまりとして読むことを促すプリント課題(指導例①)、カードを用いる課題(指導例②)を紹介します。

【平仮名・漢字の流ちょうな読みの背景と支援】



「文章の音読が不得意」には、2つの背景があります。

文章の音読が不得意

「一文字を読む」のが不得意

「平仮名单語をまとまりで読む」のが不得意



単語の読みを促進することで、文章の音読の改善をはかります。

指導文の音読が不得意

指導文中の単語のトレーニング

指導文の音読が改善

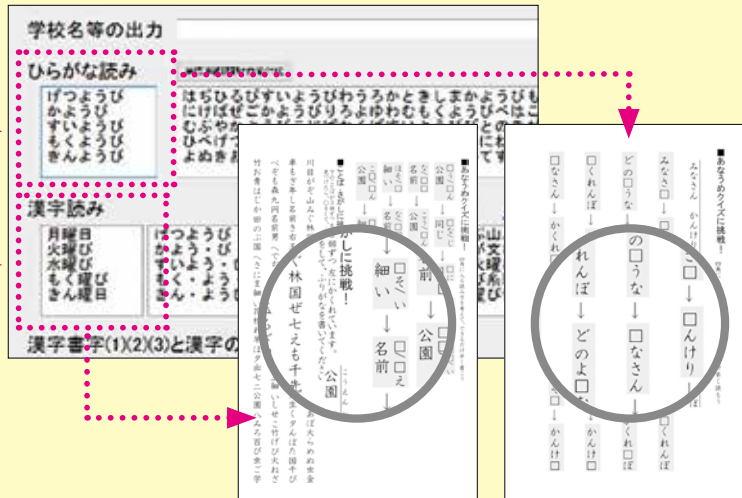
未指導文中の単語の読みが改善



単語の読みの促進に、効果的な2つの課題作成の仕方です。

付属PCソフトでプリントを作成できます！

- 【作成の仕方】(操作はP.54を参照)
- ①「プリント教材作成ソフトを起動」をクリックする。
 - ②「読み書き支援プリントによる指導」をクリックする。
 - ③「作成・編集」をクリックする。
 - ④指導したい単語を入力する。



「漢字単語の読み」プリント

「平仮名の読み」プリント

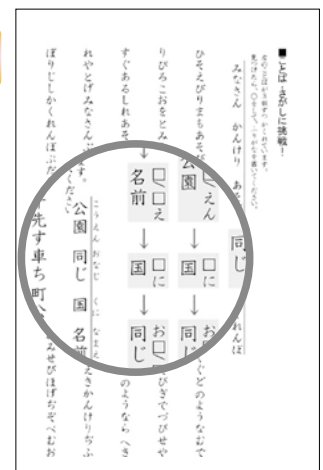
指導例① 「単語完成課題」と「単語検索課題」による音読支援の方法

- ①指導文を読ませ、音読指導を行う前の音読時間を記録する。
- ②「単語完成課題」と「単語検索課題」を用いて音読指導を行う。
- ③再度、指導文を読ませ、音読時間を記録する。

★音読指導前後の音読時間を比較し、指導の効果を確認する。

！ 指導のポイント

読みづまりや、読み誤りのある単語について練習するとよいでしょう。単語をまとまりとして捉えられるようになると、文章の読みが流ちょうになります。



II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／平仮名の流ちょうな読みの支援②

指導例 ②

「フラッシュカード課題と単語完成課題」による指導

- ①平仮名単語カード(仮名単語を書いたカード)を10枚程度作成する。
- ②平仮名単語カードを短時間(1~2秒程度)、順に提示して読ませる。【フラッシュカード課題】
- ③読めるようになったら、単語の一部の仮名文字をシールで隠す。隠されていない文字を手掛かりにして、単語を完成させて読むようにする。【単語完成課題】
- ④読めない場合は、何も隠されていない平仮名単語カードを提示して読ませる。



! 指導のポイント

単語をまとまりとして読むことができるようになると、文章の読みが流ちょうになります。単語完成課題は、生徒の興味を引く課題なので効果的です。

指導例 ③

「単語検索課題」による指導

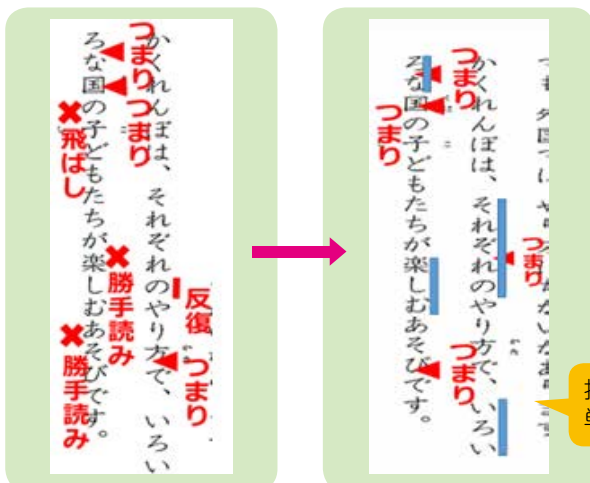
- ①仮名文字のリストを作成する。
 - ・読ませたい文章にある単語を、ターゲット単語として示す。
 - ・ターゲット単語と無意味単語を含むリストを課題として示す。
- ②1分間にできるだけ多くのターゲット単語を見付けるように促す。

! 指導のポイント

実際に音読することを生徒に求めないので、取り組みやすい課題です。くり返し行くと、見付けられる単語が増えていくので、個数を増やし、成果を記録して生徒に示すことで、モチベーションを高めます。



平仮名の流ちょうな読みが困難な事例



生徒 A: 音読に強い不得意を示す。「勝手読み」や「音のつまり」が多いので、文章の意味の把握が困難である。勉強に対して拒否的傾向が見られる。

二文字の正誤判断	
基準: 5	5
四文字の正誤判断	
基準: 5	4

二文字の正誤判断	
基準: 5	12
四文字の正誤判断	
基準: 5	4

単語を流ちょうに読む指導が進むと、四文字単語の読みがよくなります。その結果、文字数の多い単語が読みやすくなり、文章音読の改善につながります。

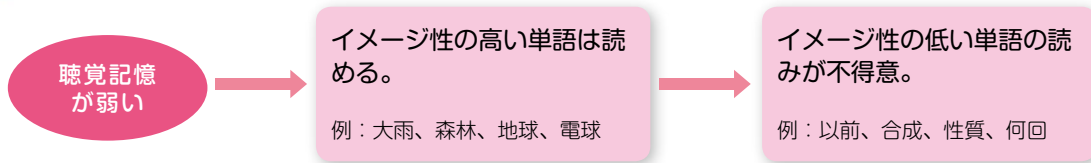
【文献 (6)】

C：支援の例／漢字単語の読みの支援①

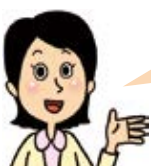
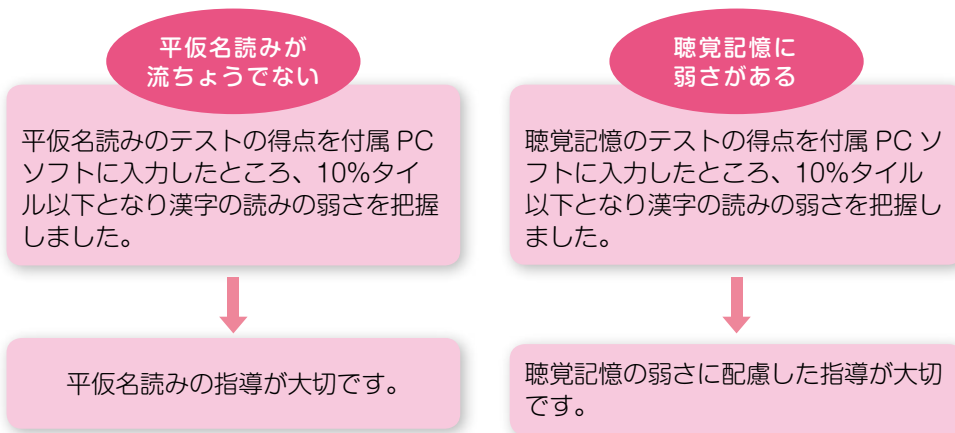
【漢字単語の読みの背景と支援】



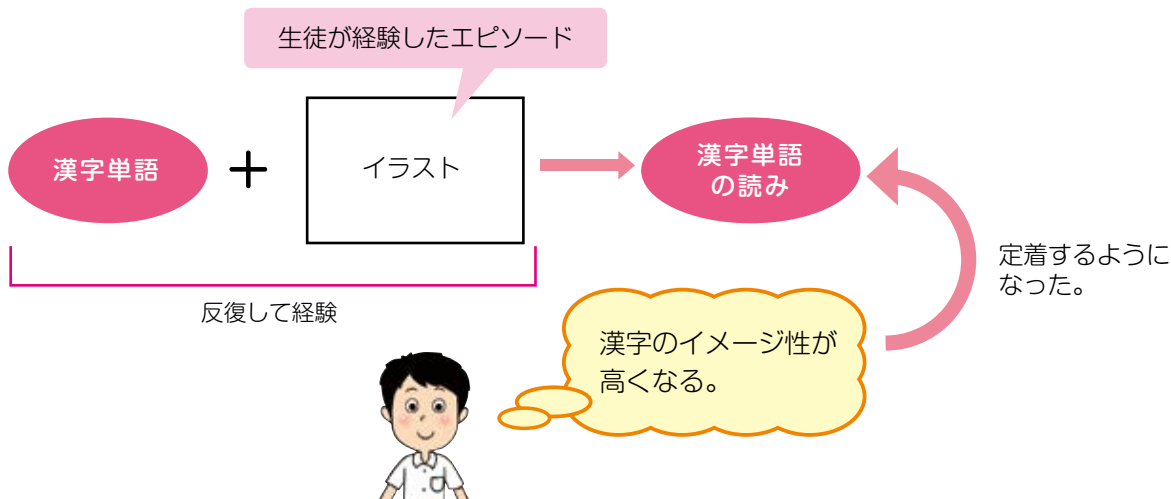
漢字の読みの習得には、聴覚記憶が関係します。聴覚記憶が弱いと、視覚的イメージ性の低い単語の読みが不得意になります。



漢字の読みが弱いことの背景となる要因は、①「平仮名読みが流ちょうでない」、②「聴覚記憶の弱さがある」の二通りがあります。



漢字の読みの指導において、生徒の正しい読みを引き出す手掛かりとして、イラストや絵は、効果的です。指導では、他に、「生徒自身が経験したエピソード」もよい手掛かりになります。



Ⅱ 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／漢字単語の読みの支援②

漢字単語読みが苦手な場合は、絵やイラストを用いて漢字単語のイメージ性を高めたり(指導例①②)、漢字単語と含む例文を手掛かりに漢字の読みの学習(指導例③)を行ったりすることが効果的です。また、漢字単語の意味的なカテゴリーや、漢字単語に関するエピソードを手掛かりに指導(指導例④⑤)を行うことも有効です。ここではこれらの指導例を紹介します。

指導例①

「漢字単語と絵の連合を形成する課題」による指導

- ①絵カードを見せ、何の絵か確認するように指示する。
→ここで利用する絵カードは、漢字の読みカードを表すものとする。
- ②絵カードを示してから、複数の漢字カードを生徒の前に置き、絵カードに対応する漢字カードを選ぶことができるように練習を指示する。
★ここでは、絵カードの名前を言いながら、漢字カードを選ぶように促す。
- ③漢字カードだけを見せて読むように指示する。



! 指導のポイント

絵は、漢字の読みを引き出す手掛かり(プロンプト)として用います。分かりやすい絵を用いることがポイントです。

指導例②

「絵の視覚記憶を手掛かりとする課題」による指導

- ①絵カードを見せ、何の絵か確認ように指示する。
- ②絵カードの上に、漢字カードをずらして置き、漢字カードを読むように指示する。
★生徒は絵を手掛かりに漢字カードを読む。
- ③②よりも絵の面積が小さくなるように漢字カードをずらして読むように指示する。
★絵の面積が小さいので、絵の記憶に基づいて読む。
- ④最後に、漢字カードだけで読むことができるように練習を指示する。



! 指導のポイント

絵を漢字カードで隠す面積を少しずつ大きくしていきます。(絵の面積を小さくしていく)

漢字単語の読みが困難な事例

二文字の正誤判断	基準: 20	25
四文字の正誤判断	基準: 14	25
漢字読み_総合	基準: 16	15
漢字読み_高心像	基準: 7	10
漢字読み_低心像	基準: 9	4

生徒 B：漢字の読み書きが不得意である。分からない問題があると、注意集中がとぎれる。テストの実施の際に、問題文の理解が困難である。

順唱	基準: 3	2
----	-------	---

順唱が困難
→聴覚記憶の著しい弱さがある
→視覚的イメージを高める支援

4文字の正誤判断テストが良好なので、平仮名文の読みはできています。具体的にイメージしやすい漢字単語(高心像)の読みは良好ですが、イメージしにくい漢字単語(低心像)の読みが困難であることから、漢字単語の読みの指導が必要です。

C：支援の例／漢字単語の読みの支援③

指導例 ③

「単語の絵と例文を手掛かりとする読み課題」による指導

- ① 絵と例文が書いてあるカード(絵＋例文カード)を見せ、それが何という単語を表すか確認するように指示する。
- ② 生徒の前に複数の漢字カードを置く。
- ③ 絵＋例文カードを示し、生徒にカードに対応する漢字カードを選ばせ、その漢字を読ませるように指示する。
(例)会社の絵と「かいしゃで、はたらく」を示して、「会社」の漢字カードを取るように促す。
- ④ 漢字カードだけを見せて読むように指示する。



かいしゃ



! 指導のポイント

絵＋例文カードの代わりに、生徒が経験したエピソード(経験した内容・時期・場所・その時の感情等)を手掛かりとして、カードを作成すると分かりやすくなります。抽象的な単語は、イラストを探すのが大変なので、漢字単語の読みをエピソードと関連付ける方法は効果的です。

指導例 ④

「カテゴリ課題」による指導

- ① カテゴリ名カードと、そのカテゴリに属する複数の漢字カードを用意し、生徒の前に漢字カードを置く。
- ② カテゴリ名カードを提示し、生徒に対応する漢字カードの読みを言いながら選ぶように指示する。
(例)カテゴリ名カード「はたらく」を提示して、「会社」「出勤」「給料」などの漢字カードを選ぶように指示する。



! 指導のポイント

カテゴリ名は、生徒にとって身近なものを用いると効果的です。

指導例 ⑤

「エピソード定義」による読み指導

- ① 指導したい漢字単語のカードを用意する。
- ② 1枚ずつカードを生徒に見せ、その単語に関連するエピソードを生徒に尋ねる。そのエピソードはメモしておく。
- ③ 全ての漢字単語についてエピソードを聞き終えたら、今度はそのエピソードを教員が読み、該当する漢字単語カードを選ぶように指示する。

! 指導のポイント

イラストなどに表しにくいイメージ性の低い単語も、生徒自身のエピソードと関連させると、覚えやすくなります。生徒がエピソードを思い付かない場合は、教員がエピソードを話し、手本を示すとよいでしょう。



これは「しょうせい」と読みます。この言葉はどんなときに使いますか？

II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／漢字単語の書きの支援①

【漢字単語の書きの背景と支援】



漢字単語の書きの不得意には、三つのタイプがあります。
不得意のタイプに応じた指導が効果的です。

【文献(3)】

タイプ1

平仮名の読みが不得意



漢字の形と読みの関係の学習が不安定になる。

背景や実態

漢字の読みが不得意

タイプ2



漢字の読みから正しい形を想起することが不得意で、書くことが困難になる。

- 漢字を全体的・視覚的に捉える傾向が強い。
- 漢字の細部に誤りが生じ、実在しない漢字を書くことが多い。

ADHDのある生徒

「漢字の部品に注意を向けさせる課題」「漢字の組み立ての記憶を促す課題」を教室中に点在させることで、ラリーのように短時間で順に取り組ませる指導が効果的である。

効果的な指導

漢字の部品に注意を向けさせる指導

- 漢字の部品をイラストに置き換えたカードを利用する。イラストを提示し、漢字を書くことを求める。
- 部品の一部が欠落した漢字カードを示し、正しい漢字を書かせる（漢字完成課題）。（P.45 指導例②）

漢字の組み立ての記憶を促す指導

- 漢字部品を見比べながら組み立てさせる手続きが効果的である。
- ⇒透明なシートに漢字の部品を印刷して作成したカードを、制限時間の中で、書き順に沿って組み合わせよう教示する。（P.45 指導例③）

タイプ3

読みは不得意でないが、書きが不得意



- 漢字の線などの位置関係の把握が困難。
- 複雑な漢字の形を記憶することが不得意である。

背景や実態

- 漢字の部品の位置関係を誤ることが多い。
- 書いた字が正しい字なのか、判断するのが困難である。

効果的な指導

漢字の部品を言語的手掛かりに置き換える指導

- 見て覚えることが苦手な可能性があるため、聴覚記憶を用いた支援が有効である。

部品の位置関係を色で教える指導

C：支援の例／漢字単語の書きの支援②

漢字の書字に苦手さがある場合には、次の4つのポイントが効果的です。

- ①漢字の書きプリントによる指導（指導例①）
- ②漢字が部品から構成されていることを理解し、部品に注意を向けさせる指導(指導例②、③)
- ③部品の組み立てを学習するうえで、漢字の形を把握できるようにする指導(指導例④、⑤、⑥)
(見て位置関係を把握することが苦手な生徒⇒言語的な手掛かり、聴覚記憶が弱い生徒⇒視覚的イメージを手掛かり)
- ④漢字書字の定着を図る指導(指導例⑦)

指導例 ①

「単語の絵と例文を手掛かりとする読み課題」による指導



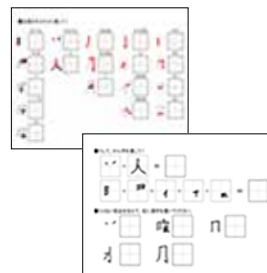
漢字の書きの促進に効果的なプリントの作成の仕方です。



付属のPCソフトでプリントを作成できます！

【作成の仕方】（操作はP.54を参照）

- ①「プリント教材作成ソフトを起動」をクリックする。
- ②「読み書き支援プリントによる指導」をクリックする。
- ③「作成・編集」をクリックする。
- ④指導したい単語を入力する。



指導例 ②

「カテゴリ課題」による指導

- ①単語の絵が描いてある絵カードを見せて、何の単語を表すかを確認するように指示する。
- ②複数の漢字カードを置いておき、絵カードを示して、その絵カードに対応する漢字カードを選び、その漢字カードを見ながら漢字を書くように指示する。
- ③一部が不足した漢字単語(欠落漢字)カードを複数置いておき、絵カードを示して、その絵カードに対応する欠落漢字カードを選び、その欠落漢字を見ながら漢字を書くように指示する。
- ④③と同じ手続きで、欠落漢字の欠落部分を大きくしていく。
- ⑤漢字単語を読んで、その漢字を書くように指示する。



部品カード



！ 指導のポイント

生徒の習得に合わせて、欠落部分の大きさを決めます。

指導例 ③

「カテゴリ課題」による指導

- ①生徒の前に、漢字の部品カードを複数置く。
- ②漢字の読みカードを呈示し、併せて漢字カードを短時間見せる。漢字カードは、欠落漢字カードにして、難易度を上げることもできる。
- ③見せた漢字カードを覚えたら、手元の部品カードを組み立てて漢字をつくるよう指示する。



部品カード

！ 指導のポイント

透明なカードに部品を書いておくと、重ねても見えるので組み立てが容易になり、分かりやすくなります。

II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／漢字単語の書きの支援③

指導例④ 「漢字の間違い箇所を探す課題」による指導

- ①漢字の一部が間違っただけの文字を複数作成し、文字リストとして生徒に見せる。
- ②見付けた間違い箇所を印を付けさせ、正しい文字を下に書くように指示する。
- ③時間を決めて、見付けることのできた漢字の数を記録し、学習成果を見せると、モチベーションがあがる。



！ 指導のポイント

間違いやすい箇所をあらかじめ示すなどして、課題に上手く取り組めるように支援します。

指導例⑤ 「漢字の形絵カードを利用した課題」による指導

- ①漢字の形の特徴を示した絵カードを作成する。(漢字の形絵カード)
(例)魚であれば、漢字の部品を含んだ魚の絵
- ②絵カードを示して、生徒に、読んでから漢字を書くように指示する。
- ③次に漢字の読みを言い、生徒が対応する絵カードを選んでから、漢字を書くように指示する。



！ 指導のポイント

イラストは、上手く部品を描き込んで、漢字の読みと意味に対応させます。記憶の手掛かりになるように、少しデフォルメするとよいです。

【漢字の形絵カード】の例



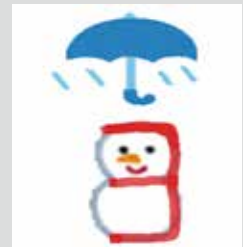
浴 シカがやってくる谷のある温泉に入浴しに行こう



車



早



雪 雨かな？ヨ〜く見たら雪だった！

指導例⑥ 「漢字の形を言葉で把握する課題」による指導

- ①漢字を部品に分け、部品ごとに名前を付ける。
- ②付けた部品の名前を使って、漢字の部品名カードを作る。
(例)「杉」→「木に、ななめ3本」
- ③生徒の前に部品名カードを複数枚置いてから漢字を見せ、対応する部品名カードを取るように指示する。
- ④生徒の前に漢字カードを複数枚置いてから部品名カードを読み、対応する漢字カードを取るように指示する。



！ 指導のポイント

部品名カードを作る際は、生徒の考えを聞きながら、分かりやすく言語化しやすいように部品を分けます。また、部品は、細かく分けすぎないようにします。

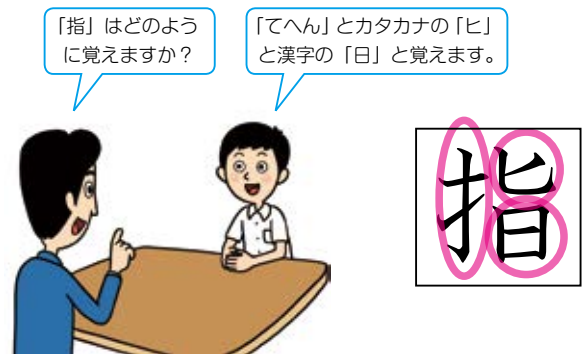
C：支援の例／漢字単語の書きの支援④

指導例 ⑦

「漢字の覚え方のリマインド」による指導

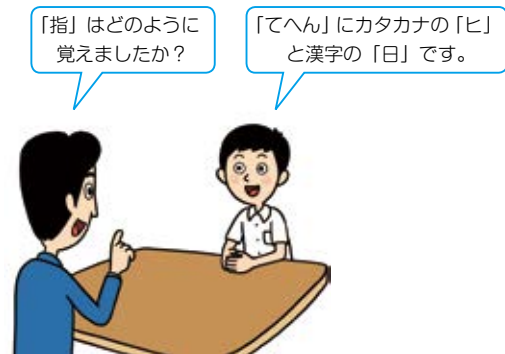
【①生徒と話し合い、漢字の覚え方を決める】

- ① 漢字の読み方や意味を教え、正しく答えることができるか確認する。
- ② 漢字が書かれたプリントを用意し、生徒に、この漢字をどのように分けるか尋ね、分けた部分を丸で囲むように指示する。
- ③ 分けた部分の部品の覚え方を考え、プリントに書くように指示する。
- ④ 漢字の覚え方を尋ねる。



【②1週間に1～2回、漢字の覚え方を思い出す】

- ① 漢字の覚え方を尋ね、覚え方を思い出すよう促す。
- ② 思い出すことができなかつた漢字については、再度、覚え方を生徒に教える。



【③漢字を書くことができるか確認する】

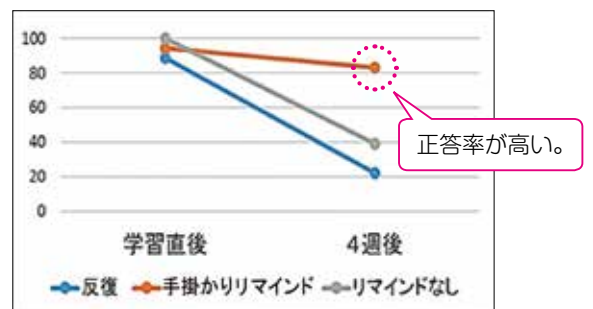
- ① 漢字の覚え方を学習した日から、1週間後に漢字が書けるか確認する。

！ 指導のポイント

生徒自身が思い出しやすい覚え方を考えることが大切です。覚え方を考えることが難しい場合は、教員が手本となるような覚え方を提案し、生徒と話し合いながら学習を進めるとよいでしょう。

リマインド書字学習の支援効果

- ・ 漢字書字の困難を示す生徒では、リマインド書字学習は、特に効果的です。
- ・ 始めの指導では、漢字部品についての言語的手掛かりとともに、漢字を書く学習をするよう指導しました。
- ・ 指導後、週に2回ずつ、2週間、漢字を学習する際の言語的手掛かりを、思い出す学習を行いました（リマインド）。これは右の図中の手掛かりリマインド群になります。3週目から、リマインドを行いませんでした。
- ・ 4週間後、リマインドを行わなかつた時（非リマインド）や反復学習と比較したところ、漢字記憶が定着している割合が高いという結果を確認できました。



手掛かりリマインド：週2回、2週間、漢字の覚え方を確認した時の漢字の正答率
 リマインドなし：後から漢字の覚え方の確認をしなかつた時の漢字の正答率。1回目の学習方法は同じ
 反復学習：漢字を反復的に書く学習を4回くり返し行った時の漢字の正答率

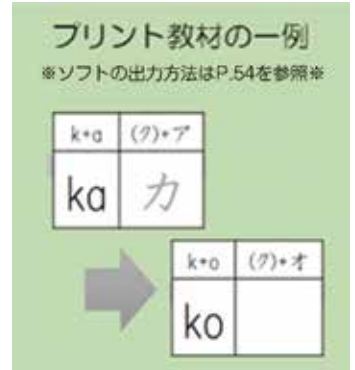
II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／ローマ字の読み書きの支援例

指導例 ①

子音と母音を組み合わせたアルファベットの音理解につなげる指導

- ① 日本語の音声は子音と母音を足すことでできていることを示す。
⇒「S(ス)」と「A(ア)」とつなげて言うと「さ」という音ができることを示す。
⇒「さ」を口を開けずに言おうとすると、「ス」という音になることから、「S=ス」と表記するルールを示す。



! 指導のポイント

音声呈示だけで理解が困難な場合には、カナ表記でヒントを示したり、カードを実際に操作させることで、取り組みやすくなります。

指導例 ②

「アルファベットカード」による音の構成の指導

- ① アルファベットの文字と音の対応に基づいて、音の発音を予想させます。
- ② 音声で呈示した後に、アルファベットカードを並べ替えることで、新しい音を作らせます。

! 指導のポイント

カードによる音声の混成がうまくできるようになったら、実際に自分や友人の名前、知っている言葉を書かせるなど、ステップアップしてみましょう。

「ブ、ア」を足すと何と読みますか？



ブア………
………バ!



支援教材のカナ表記の使用について

英単語つづりに困難を示す生徒には、英語発音と単語つづりの学習導入期に、日本語の発音に基づく支援教材を用いることが効果的であるということが分かってきました。特にアルファベット文字と音の関係を、効果的に学習できると報告されています。

本教材では、日本語発音に基づく支援教材として、近似カナ表記（島岡,1994）に基づいたカナ表記を手掛かりとして用いています。これは、日本語の音声を用いてできる限り英語に近い発音が可能となるよう研究されたものです。下部に、本教材におけるカナ表記とアルファベット文字の対応表を示しました。特別な配慮が必要な生徒に対して、アルファベット一文字と音の対応関係の理解が、ある程度進むまでの限定的な補助として利用するものとします。

カナ表記	ア、エア	ブ	ク	ド	エ	フ	グ	／	イ	ヂ	ク	ル	ム	ヌ	オー	ブ
アルファベット文字	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p
カナ表記	／	ウル	ス	ト	／	ヴ	ウ	クス	イ	ズ	イー	エーイ	アイ	ス	ウー	
アルファベット文字	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	ea	a-e	i-e	th	oo	

*島岡丘「中間言語の音声学」P.10を参考に作成 表のカナ表記中の空欄は、本教材で扱わないことを示す。

C：支援の例／英単語のつづりの支援①

【英単語つづりの背景と支援】

英単語のつづり学習の弱さの背景となる要因を調査しました。その結果、三つの要因が分かりました。



音素の構成	“b(ㄅ)” + “a(ㄚ)” = ba(ㄌ) 等の音素の構成が困難であると、“pen” など基本的な単語のつづりにも困難を示す。
つづりのルール	“ea” = 「イ」と読む等のつづりのルールが理解できないと、あらゆる単語をローマ字のように書いてしまう。
英単語の視覚認知	単語の見た目を記憶し活用する力が不十分であると、つづりの誤りに気付けない。



中学1年生では、「音素の構成」が、つづり困難の主な要因になります。中学2・3年生では、「英単語の視覚認知」「つづりのルール」が、要因に加わることが分かりました。

困難の背景となる要因に合わせたプリント学習が効果的です。これにより生徒にとって、負担の少ない学習支援が可能になります。

「読み書きアセスメント」では、困難の要因に対応した学習支援プリントを利用します。印刷の仕方は、P.54にあります。



	背景となる要因に応じた学習支援	学習支援プリント
音素の構成	文字と音の関係がローマ字に準ずる単語のつづり	単語の紹介⇒文字⇒音対応の理解 ⇒音の混成⇒単語の意味の確認 ⇒穴埋めによる単語完成
つづりのルール	文字と音の関係がローマ字に準じない単語のつづり	単語の紹介⇒つづりのルールの紹介 ⇒音の混成⇒単語の意味の確認 ⇒穴埋めによる単語完成
英単語の視覚認知	見ただけでは発音が分かりづらい複雑な単語	単語の紹介⇒正しいつづりの選択 ⇒誤ったつづりの訂正 ⇒単語検索課題
英語の発音	英語の発音とつづりとの対応	P.37に教材の紹介があります。ご参照ください。

II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

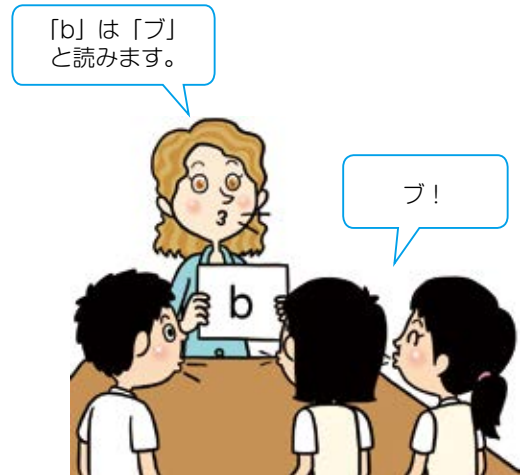
C：支援の例／英単語のつづりの支援②

指導例① アルファベットカードによる文字と音のマッチング

- ① アルファベットを一文字ずつ書いたカードを用いて、一文字ごとの発音を確認するように指示する。
- ② 音声を手掛かりとしたカード選びや、カード呈示による発音をするように指示する。

！ 指導のポイント

音声提示のみでは、文字との対応をうまく学習できない場合、カナ表記を手掛かりにすることも有効です。学習できてきたら、カナ表記の文字色を薄くする、小さくする、一部隠すなど、少しずつ手掛かりを少なくします。

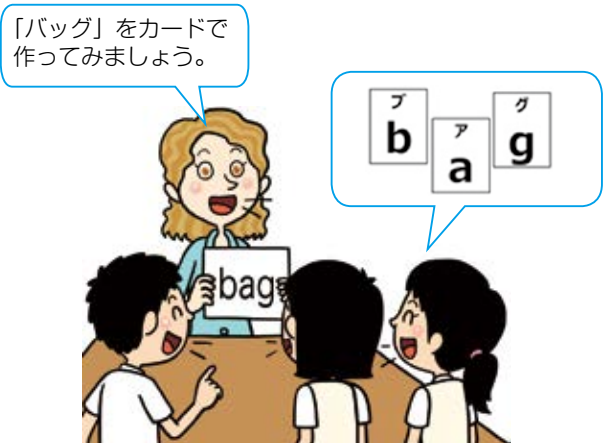
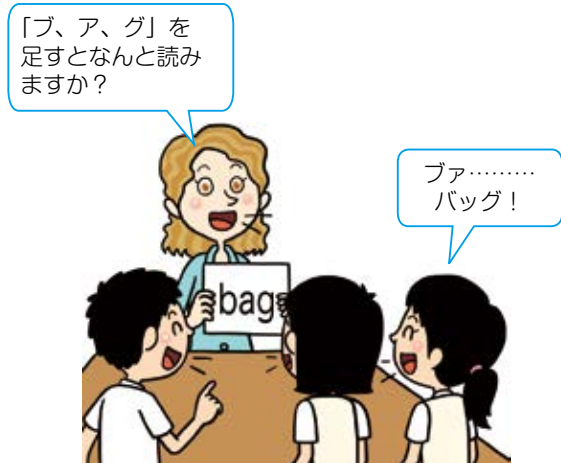
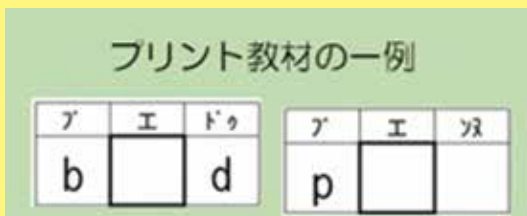


指導例② 「アルファベットカード」による単語の構成

- ① アルファベットの文字と音の対応に基づいて、単語の発音を予想するように指示する。
- ② 音声を手掛かりに、アルファベットカードを並べ替え、単語を完成させるように指示する。

！ 指導のポイント

カードでうまく単語が作れるようになってきたら、一部空欄になった単語を穴埋めで完成させるなど、書く作業につなげていきます。



C：支援の例／英単語のつづりの支援③

指導例③ 単語カードによる視覚的イメージの形成

- ①単語カードを呈示して、できるだけ速く読むように促す。
- ②間違えずに読めるようになってきたら、単語カードを並べ、意味や発音を口頭で呈示し、カルタ取りをするように指示する。



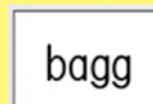
できるだけ速く
読んでみましょう。

バッグ！



！ 指導のポイント

慣れてきたら、単語の一部を隠した単語カードを使用したり、誤ったつづりの単語をダミーとして選択肢に混ぜたりしてもよいでしょう。



指導例④ プリント課題による視覚的イメージの形成

- ①ランダムに配置されたアルファベットの中から、単語を探して○で囲むように指示する。頭の中に単語の形態を思い浮かべて探すことで、視覚的イメージを形成できるようになる。

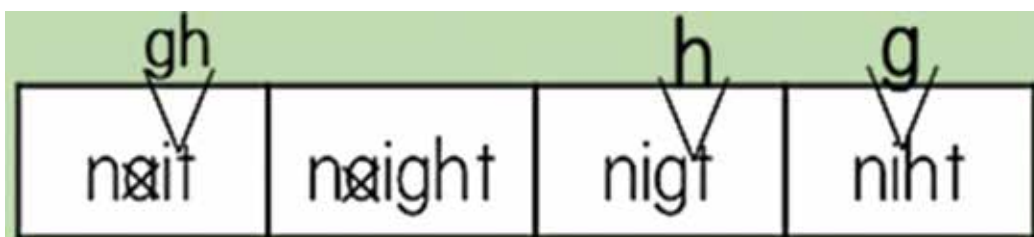
ここで紹介するプリント教材の出力方法は P.54



- ②間違ったつづりの単語を提示し、正しいつづりに修正するように指示する。より正しい視覚的イメージを定着させることにつながる。

！ 指導のポイント

②は、ある程度単語の視覚的イメージが形成されたら、スムーズに取り組むことができるようになります。②の取り組みが困難な場合は、①に示した指導からチャレンジしてみましょう。



II 通級による指導で活用するアセスメントと支援

C：支援の例／英単語のつづりの支援④

指導例⑤ 基本的なつづりのルールの指導

①二重母音やサイレントE*など、代表的なつづりのルールを指導する。



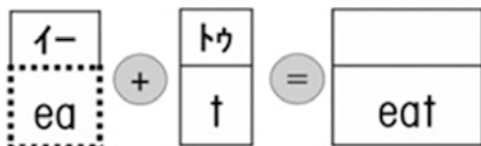
ルール：母音が二つ連続すると発音が変わる。



ルール：単語の最後に e がついているとき
1. 最後の e は読まない。
2. 2文字以上前の「i」は「アイ」と読む。

* サイレント E：単語の語尾にあって発音しない E (例：mine)

②指導した文字の組み合わせについて、ほかの文字と組み合わせ、単語の発音を推測させる。文字カードでも実施できる。



! 指導のポイント

特別なルールがあるつづりは点線、子音は細い実線、母音は太い実線などというように、枠線の種類を変えたり、色を変えたりすると、取り組む際の手掛かりになります。慣れてきたら、全ての枠線を同じ種類にしたり、色分けを無くしたりすることでステップアップできます。

指導例⑥ 「アルファベットカード」による単語の構成

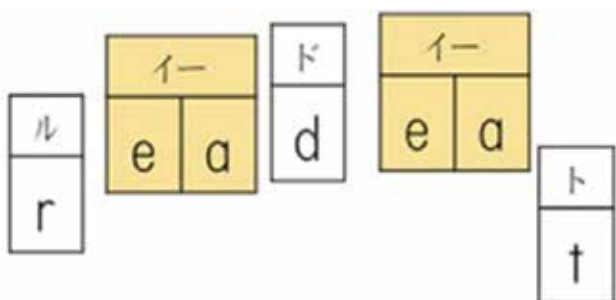
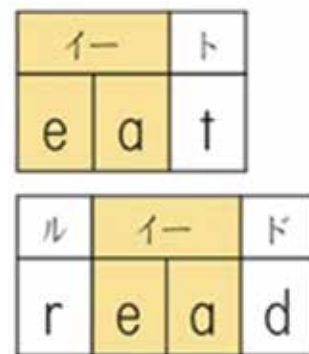
①文字と音の対応が不規則な単語を、発音に応じて区切る。

②区切った発音ごとにカードを作り、組み合わせて単語を完成させる。

* 文字と音の対応を上手く学習できない場合、カナ表記を示すことも有効。

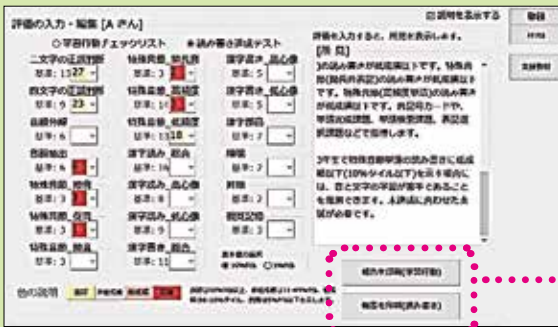
! 指導のポイント

カードによる単語の構成が上手くできるようになってきたら、一部を空欄にした単語を呈示し、穴埋めによって完成させることで単語のつづりにつなげることができます。



3 CD ソフトの使い方 / 「読み書きアセスメント」(通級による指導版)の使い方

「評価を入力」をクリックして、各生徒のテスト結果を入力します。生徒ごとの所見が出るので確認します。



「報告を印刷(読み書き)」をクリックすると印刷されます。「通常使うプリンタ」に出力されます。



*1 ■や2 □が重複している生徒は、学習上の配慮が必要

基本の設定

作業を終了するときには、情報・得点を保存します。



ここでは、登録された生徒を選びます。

支援教材を印刷・提示します。

ここで、生徒の情報を入力・登録しておきます。

登録氏名(*)	ふりがな	性別	在籍校名	学年(*)	学年	担任
1 生徒氏名1	たにしめい1	男	A中学校	1年	4	担任
2 生徒氏名2	たにしめい2	男	中学校	2年	1	担任
3 生徒氏名3	たにしめい3	男	中学校	3年	2	担任
4 生徒氏名4	たにしめい4	女	中学校	1年	2	担任
5 生徒氏名5	たにしめい5	男	中学校	2年	1	担任
6 生徒氏名6	たにしめい6	女	中学校	3年	3	担任
7 生徒氏名7	たにしめい7	男	中学校	1年	2	担任
8 生徒氏名8	たにしめい8	女	中学校	2年	2	担任
9 生徒氏名9	たにしめい9	男	中学校	3年	3	担任
10 生徒氏名10	たにしめい10	女	中学校	1年	4	担任
11						

「読み書き達成テスト」を印刷し、実施します。



英単語のつづり支援ワーク等、学習支援教材

英単語のつづり支援ワーク



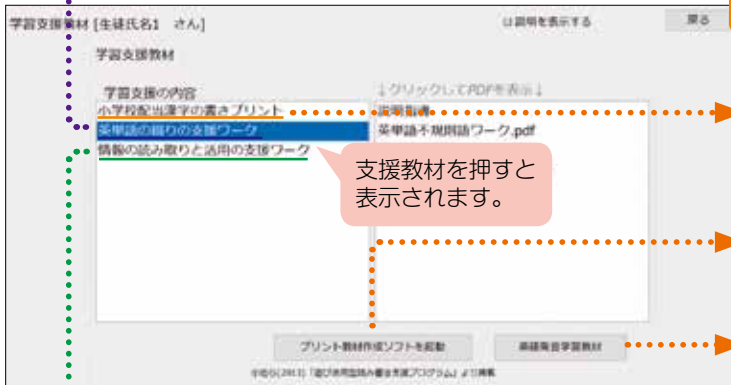
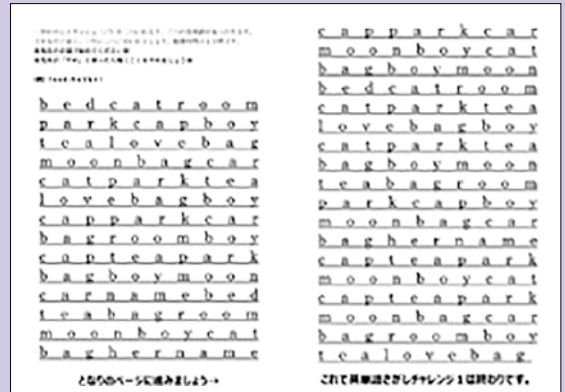
英単語のつづりの習得では、英語発音と英単語つづりの対応を学習することが大切です。そのために、文字と音の学習を生徒の達成レベルに合わせて支援(①②③)するとともに、ネイティブスピーカーの発音と英単語つづりの対応(④)の習得を支援します。

①文字と単語の関係がローマ字に準ずる単語についてつづりを学習するワーク

②文字と単語の関係がローマ字に準じていない単語についてつづりを学習するワーク

③文字と単語の関係がローマ字に準じていない単語について、つづりを学習するワーク

④ PC ソフト：ネイティブスピーカーの発音と英単語つづりの対応学習



小学校配当漢字の書き支援プリント

読み書きへの苦手意識が強い場合には、小学校配当漢字の書き支援プリントを利用することができます。

平仮名の読みプリントと漢字の読みプリントを、作成することができます。読み書きへの苦手意識が強い場合に効果的です(プリントの説明は、P.39とP.45)。

英語発音の教材を利用することができます。

情報の読み取りと活用の支援ワーク

言葉の手掛かりが順に少なくなるようにステップ(レベル1〜3)を設定してある情報活用のプリント教材を使用します。

図表を使った説明にチャレンジ①

地元の商店にお買い物したいと、好きなお菓子を贈りてほしい

売店のお菓子

せんべい	4%	おもち	1%
チョコレート	5%	クッキー	3%
おまんこ	6%	ビスケット	1%
シュークリーム	6%	アイス	1%

Aさんの気持ち
「お菓子が好きと、いつか売店で菓子を買いたいのですが、売店には好きなお菓子が少ないです。好きなお菓子は2種類しかありません。好きなお菓子を贈りてほしいのと、思います。」

ステップ1: 以下の図表の傾向を読み取り、Aさんの気持ちを読み取ります。
ステップ2: Aさんの気持ちを読み取った後、必要な部分を、空欄に記入してください。
ステップ3: 以下の空欄を、Aさんの気持ちを読み取った後、必要な部分を、空欄に記入してください。

「()のお菓子は全体の()%しかないので、もう少し、種類を増やしてくださいませんか?」

レベル 1

図表を使った説明にチャレンジ②

お月見と秋の行事について、習い事を一つ決めてほしい

お月見 10%

秋の行事

お月見	10%	秋の行事	10%
お月見	10%	秋の行事	10%
お月見	10%	秋の行事	10%

Aさんの気持ち
「お月見が好きで、お月見の行事が大好きです。秋の行事も、お月見が好きです。お月見の行事が、お月見が好きです。お月見の行事が、お月見が好きです。」

ステップ1: 以下の図表の傾向を読み取り、Aさんの気持ちを読み取ります。
ステップ2: Aさんの気持ちを読み取った後、必要な部分を、空欄に記入してください。
ステップ3: 以下の空欄を、Aさんの気持ちを読み取った後、必要な部分を、空欄に記入してください。

レベル 2

図表を使った説明にチャレンジ③

言葉の先生にお話を聞いて、紙の未来をもっと入ってほしい

紙の未来

紙の未来	10%	紙の未来	10%
紙の未来	10%	紙の未来	10%
紙の未来	10%	紙の未来	10%

Aさんの気持ち
「うちの学校の図書室は、古い本ばかりで、読みたい本があまりありません。もっと新しい本がほしいのと、思います。」

ステップ1: 以下の図表の傾向を読み取り、Aさんの気持ちを読み取ります。
ステップ2: Aさんの気持ちを読み取った後、必要な部分を、空欄に記入してください。
ステップ3: 以下の空欄を、Aさんの気持ちを読み取った後、必要な部分を、空欄に記入してください。

レベル 3

引用文献

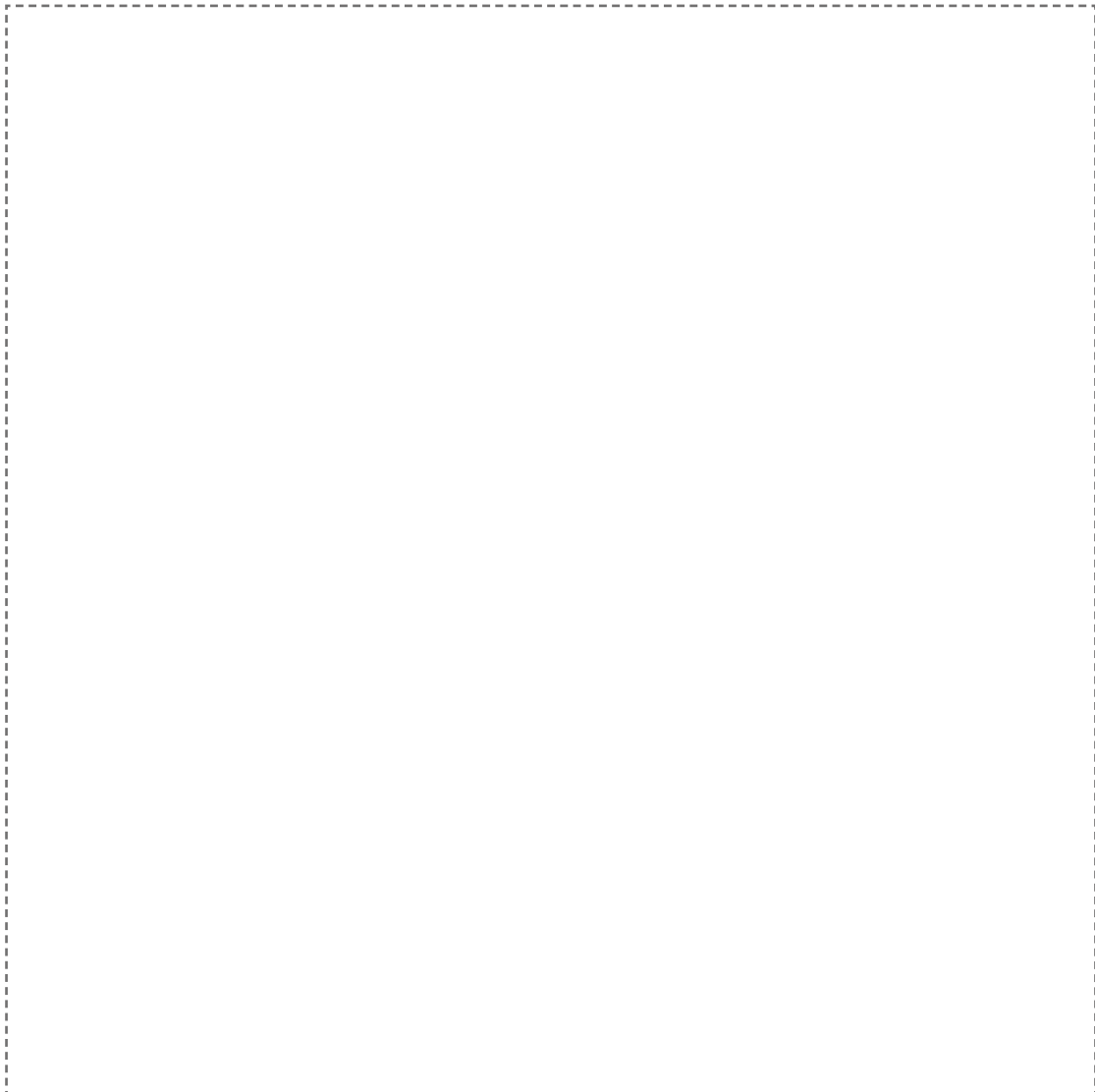
- (1) 彌永・中・銘苅・中村・小池 (2017) 小学生 1・2・3 年生における特殊表記習得の低成績の背景要因に関する研究. 特殊教育学研究, 55, 63-73
- (2) 小池 (2016) LD の子の読み書き支援が分かる本. 講談社.
- (3) 銘苅・中・後藤・赤塚・大関・小池 (2015) 中学生における英単語のつづり習得困難のリスク要因に関する研究. 特殊教育学研究, 53, 15-24.
- (4) 中・吉田・雲井・大関・五十嵐・小池 (2014) 小学2年における漢字読字・書字困難のリスク要因に関する研究. 特殊教育学研究, 52, 1-12.
- (5) 中村・中・銘苅・小池 (2017) 小学2～6年生における漢字書字低成績の背景要因に関する研究. 特殊教育学研究, 55, 1, 1-13.
- (6) Onda・Sato・Takimoto・Mekaru・Naka・Kumazawa・Koike (2015) Risk factors for kanji word-reading difficulty in Japanese elementary school children. Journal of Special Education Research, 3, 23-34.
- (7) Sato・Narukawa・Naka・Mekaru・Nakamura・Koike (2017) Risk factors for difficulty in reading comprehension of multiple-paragraph expository text at third to sixth grade of Japanese elementary schools. Journal of Special Education Research, 5, 23-34.
- (8) 瀧元・中・銘苅・後藤・雲井・小池 (2016) 学習障害児における改行ひらがな単語の音読特徴. 特殊教育学研究, 54, 65-75.
- (9) Kintsch, W. & van Dijk, T. A. (1978) Toward a model of text comprehension and production. Psychological Review, 85, 363-394.

【アセスメントについて】

本ソフトは、東京学芸大学・小池研究室と鹿児島大学・雲井研究室、NPO 法人スマイルプラネット・山先公一により共同開発されました。最新バージョンは、以下のサイトよりダウンロードできます。
(<http://sne-gakugei.jp/teaching/user/koik/201305231005.html>)

【読み書きアセスメントの設定】

- ①フォルダ名 (任意名) を PC に作成します。
- ②DVD から PC へ、アプリケーション (読み書きアセスメント) とフォルダをコピーします。
- ③アプリケーション (LDGSH.exe) をダブルクリックすると起動します。



『読めた』『わかった』『できた』
読み書きアセスメント
～中学校版～

活用&支援マニュアル編

『読めた』『わかった』『できた』
読み書きアセスメント～中学校版～ 活用&支援マニュアル編

東京都教育委員会印刷物登録 平成 29 年度 222 号

発行日 2018 年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課

所在地 東京都新宿区西新宿 2 丁目 8 番1号

電話 03-5320-6847

監修 東京学芸大学 小池敏英・中知華穂・銘苅実土
鹿児島大学 雲井未歆